

安心できる家庭と機嫌を取っている家庭の違い

観点	安心できる家庭	機嫌を取っている家庭
家の定義	心と体を休ませ、考える時間を持ちながら、 外へ向かう力 を養える場所	一時的には元気に見えるが、 「自分で立ち直る力」 が育まれない場所
親のスタンス	親は仕事・家事など 日常を維持する	子ども中心に動く（予定が子ども優先）
物・お金の扱い	欲しい物はお 小遣いやルール予算 で決める	ねだられるまま ゲームや高価品を買い与える
声かけ	認める声かけ ：「やればできるね」「助かったよ」→自己肯定感を上げる	同情する声かけ ：「かわいそう」「何もできなくて辛いよね」→自己肯定感を下げる
生活リズム・境界	周囲に迷惑をかける言動には 適切に注意できる	昼夜逆転・暴言・わがままも 注意できない （衝突回避）
食事・生活動線	食べる・食べないは子どもの問題ですが、 部屋には持ち込まない	食事を自室へ運ぶ など、要求に応じ 孤立と依存 を強める
主語の軸	「 家として こうする」「 家族のルール はこれ」と親に軸がある	「 子どもが ストレスだから／かわいそうだから／食べたいと言うから…」で親の軸がぶれている
親子の依存度	子が 必要な時にはサポートする が、基本は自分でできることは自分でさせる	子が元気になっていくにつれて親に依存しているため 親が疲弊 していく
兄弟への影響	特別扱いはせずに 兄弟平等 に接する	特別扱いが増え、 不平等 や軋轢が生まれる
学び・活動の促し方	勉強・習い事等は 強要せず 本人に考えさせる	「学校行ってないんだから 手伝いなさい/勉強しなさい 」など押し付けの小言